

第3回知識共創フォーラム 発表募集案内 <<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>

知識は、人間の生命・安全保障から企業・都市・国家の経営、そして地球規模の持続可能社会構築に至るまであらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。

このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第3回知識共創フォーラムを開催します。

会期：平成25年3月2日（土）、3日（日）

会場：北陸先端科学技術大学院大学・東京サテライトキャンパス, Room(D, E)

住所：東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟19階

参加費：無料（初日に予定されている懇親会は有料となります）

## 1. 主な構成

第3回知識共創フォーラムは、以下の4種類のセッションによって構成されます。

### I. 招待講演セッション：

招待講演タイトル：「組織における、実験とリスクー未来をめぐる二つのベクトル」

招待講演者：福島 真人 教授【東京大学大学院総合文化研究科】

### II. テーマセッション：「革新のための知の生態学」（20分発表，20分合同質疑応答）

常に革新を要求する現代社会において、新たな価値を創造しそれを広く社会の中で展開していくことは、そこに生きるものにとって避けられない現実である。他方、現代社会はその構造が複雑化し、その複雑さが多くの危険をはらむ。

前者のイノベーションの働きを加速するには、我々が生きる社会空間の中に、革新のための試みを可能にする空間、いわば「社会的な実験室」を確保する必要がある。しかしそ

うした実験の可能性は、たとえばリスクの高い現場では確保することが難しい。なぜなら、そうした状況ではちょっとしたミスが大事故につながりかねないからである。

本セッションで議論したいのは、どんな現場でもかまわないが革新を目指す現場をある種の「社会的実験室」と考え、そこで行われる実験がどのような特徴をもち、間主観的に構成・共有される明示的・暗黙的な制度としてどのように保証され、あるいは、どんな制約によって阻害されるのか、そうした革新を促進したり制約したりする諸条件を、「知識」という概念により分野横断的に検討・分析することである。すなわち、そのような社会的実験室では、どのような知識の創造・共有・活用が行われるか・行い得るか、そして、革新を可能にするにはどう知識を活用し実践していく必要があるか、さらには、そのような実験的な場を構成するための知、および、流通・アウトプットされる知識の役割、いわばメタな知識についても考察したい。

なお、ここで言う実験室というのは、試行錯誤を伴った革新への努力がなされる空間をメタフォリカルにそう呼ぶ。それゆえ医療現場での改善への意図や、やったことの無い政策を実行することもある意味で実験と呼べる。当然のことながら、そうした実験がもたらす可能性としての革新、多くの失敗と多大なコスト、それを回避する傾向性など、いろいろな問題がここでは散見しうる。

こうした問題も含め、革新を目指す実験的空間における、知識の創造・共有・活用、そして実践に関わる「知の生態学」を本セッションではこころみる。

### III. 一般セッション（20分発表，20分質疑応答）

本セッションでは、各自の知識科学研究の成果を報告し研究を進めることを目的とします。登壇者は知識科学に関連すると考えられるテーマについて、自らの研究活動を魅力的に説明することが期待されます。また、参加者は発表に対し、補うべきロジックや新しい展開の方向性についてアイデアを提供することが期待されています。

### IV. シーズ（種）セッション（15分発表，20分質疑応答）

知識の創造・活用を促進させると考えられる、自らの持つ技術やコンセプトの種を成長させることが目的のセッションです。登壇者は自らのアイデアを明瞭かつ魅力的に解説することが、また、参加者は当該アイデアの持つ理論的・実用的意義について考えコメントすることが期待されます。

### V. インタラクティブセッション（1時間30分発表）

発表者と参加者たちの間で長時間・双方向のインタラクションが望まれる知識科学に関する研究成果（研究途上成果も含む）についてポスター形式で発表し、参加者との知識共創によって研究をさらに発展させること目的とします。

議論のポイントを明確にするため、発表者には全参加者に対してショートプレゼンを行

させていただきます。参加者は発表者が提示した論点を中心に、発表内容について建設的な議論を行ってください。

## 2. 対象課題

知識の創造・共有・活用に関わるあらゆる研究を対象とします。特に、以下の課題に関係のある話題を歓迎しますが、これに限るものではありません。

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

(参考キーワード)

知識科学, 研究開発マネジメント, ナレッジ・マネジメント, サービス・マネジメント, 知識経済, 知識人類学, 人材マネジメント, 感性情報処理, イノベーション・マネジメント, 医療サービス, オントロジー, 発想支援システム, 知識創造プロセス, 知識発見, デザイン思考過程, スキルサイエンス, 身体化された認知, 知識表現, 知識共有支援システム, 知識獲得, 知識観, メディア・インタラクション, 創造性支援システム, 認知科学, 認知モデル, 認知心理学, 意思決定分析, 創造活動支援, メディア創造, コミュニケーション支援システム, ソフトウェア開発のための知識創造支援, 知識構成システム論, 複雑系, 市場制度分析, シミュレーションシナリオ分析, システム方法論, 複雑ネットワーク科学, 地域イノベーション, 高等教育マネジメント, その他

## 3. 本フォーラムでの発表の取扱い

- まず、発表のアブストラクト（1000字程度、かつ、A4で1枚以内）を、下記の「5. 投稿方法」に従って投稿していただきます。
- アブストラクトの内容を査読した上で採否を決定します。
- [II]～[IV]のセッションに採録された方にはフォーラム開催の前に発表に関する論文を提出していただきます（ページ数は4～10ページの範囲内）。なお、インタラクティブセッションに採録された方の論文提出は任意とします。
- 提出された論文はweb版論文集を通じて公表されます。

## 4. 主なスケジュール

- アブストラクト投稿〆切：~~平成24年12月27日(木)~~  
平成25年1月10日(木)に延長しました
- 採録通知予定：平成25年1月中旬
- 論文提出〆切：平成25年2月15日(金)
- 第3回知識共創フォーラム開催：平成25年3月2日(土)、3日(日)

## 5. 投稿方法

知識共創フォーラムの web サイト<<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>にアクセスし、登録の上、論文のアブストラクトの PDF ファイルをアップロードして下さい。投稿に際して、テーマセッション、一般セッション、シーズセッション、インタラクティブセッションのどれに投稿するかを指定していただきます。ただし、選考結果によっては、ご希望のセッションとは異なるセッションに組み込まれることがあります。

アブストラクト原稿のフォーマットは、web サイトにテンプレートファイル（本文 1000 文字程度、かつ、A4 で1 ページ以内）を用意しましたので、そちらをお使い下さい。図表を挿入していただいても構いません。

## 6. 賞

[II]～[IV]のセッションにて発表された方の中から優秀であると認められた論文に対して論文賞を授与します。この他に、公共政策、地域経営の実践に寄与する優れた研究に対し、石川県能美市より能美市長賞が贈られます。

また、本フォーラムでの質疑応答をもとに後日改訂された論文の中から優秀であると認められた論文に対しても賞が授与されます（こちらは[V]インタラクティブセッションの論文も選考の対象となります）。

## 7. 後援

本フォーラムは、北陸先端科学技術大学院大学の後援を受けております。

## 8. 問合せ先

知識共創フォーラム事務局

Email: <[office-fokcs@onto.jaist.ac.jp](mailto:office-fokcs@onto.jaist.ac.jp)>